

目次

巻頭付録

公共建築年表
組織変遷

横浜市の公共建築 —006

第1章

横浜市公共建築のはじまり —009

100年前の横浜 —010

青木 祐介 [横浜開港資料館・横浜都市発展記念館 副館長] 寄稿

初代建築課長 山田七五郎 —012

震災復興事業期の建築課 —014

100年を超える建築

開港記念会館 —016

赤レンガ倉庫 —018

第2章

横浜市公共建築の100年 —021

これまでの横浜市公共建築 —022

市民に身近な公共建築

庁舎 —024

学校 —032

住宅 —040

横浜コモンズ —048

新たな時代の公共建築へ —050

第3章

横浜を代表する公共建築 —055

日刊建設通信新聞社 編集

横浜を代表する公共建築100施設 —056

第4章

100周年事業 —121

100周年事業について	—122
根岸森林公園新築トイレ設計コンペ	—124
建築家 内藤廣 講演会	—130
よこはま建築ひろば	
シンポジウム	—138
こどもワークショップ・関連イベント	—144
横浜市こどもの美術展2022	—154
こどもの絵画作品LEDビジョン投影	—155
年表・タペストリー展示	—156
学校建替え工事 出前授業	—158
Instagram	—159
よこはま建築フォトコンテスト	—160

未来に向けて

これからも横浜らしく	—166
------------	------

巻末資料

公共建築リスト	
庁舎	—168
学校	—177
住宅	—191
木造化施設	—198
参考文献・資料	—201
横浜市公共建築物に関する組織体制	—202
横浜市公共建築100周年事業 プロジェクトメンバー	—203

横浜市の公共建築

横浜市における公共建築とは、
行政、教育、文化、福祉など様々な分野において、
行政サービスの提供や市民活動を実践する場、
また、課題の解決に向けた施策を
実現するための施設をいいます。

これらの施設を整備し、
維持・保全を行っています。

こうした施設には、
横浜市が直接整備した建築物だけでなく、
国や県、民間から取得又は寄贈を受けた
公益的な施設や歴史的な建築物なども含みます。

現在、2,600を超える施設を保有しています。
市庁舎、区庁舎、学校、市営住宅、
地区センター^{※1}、地域ケアプラザ^{※2}、コミュニティハウス^{※3}、
図書館、公会堂、病院、斎場、市場、公園施設、
水道施設、交通施設、水再生センター、焼却工場のほか、
古民家や西洋館などがあります。

※1 体育室や会議室などを備えた、地域住民の活動や相互交流の場としてスポーツ
やレクリエーション、クラブ活動、集会などを行うことができる施設

※2 多目的ホールや相談室などを備えた、福祉・保健に関する行事や相談・支援な
どを行うことができる施設

※3 学習室や集会室などを備えた、子どもからお年寄りまで様々な市民の交流や地
域活動の身近な拠点となる施設





横浜市の総保有施設数

2,608

市民利用施設 448 **庁舎・事務所 310**

教育・文化	101	庁舎・事務所	310
コミュニティ	232		
スポーツ・レクリエーション	96		
その他	19		

都市基盤系建築物 916

社会福祉施設 308 病院等 7

高齢系	146	斎場等	7
障害系	20	公園等	446
こども系	116	交通	97
その他	26	上水道	62

学校施設 514 下水道 46

小・中・高特別支援	510	港湾	150
その他	4	市場	4

市営住宅 109 **その他 3**

市営住宅	109	その他	3
------	-----	-----	---

財政局 横浜市公共建築部マネジメント白書（第2版）より

左頁上から：区庁舎（都筑区総合庁舎）／市営住宅（川辺町第二住宅）、交通施設（保土ヶ谷営業所）／スポーツ施設（磯子スポーツセンター）／公園施設（東俣野中央公園管理棟）／西洋館（エリスマン邸）

右頁上から：学校（横浜サイエンスフロンティア高等学校・附属中学校）／図書館（山内図書館）／社会福祉施設（六ツ川地域ケアプラザ）／病院（横浜市民病院）／文化施設（横浜みなとみらいホール）